

高圧送電線から発生する電磁波……気になりませんか？

1月19日(火曜日) 11:00～(雨天順延・順延の日程は未定です)

**西鎌倉小学校において教育委員会立ち会いのもと
東京電力による電磁波の測定を行います。
過去測定の記録はなく、今回は大変貴重な機会です。
お時間がある方、ぜひご参加ください。**

高圧送電線からは常に多量の電磁波が発生しており、日常的に電磁波を受けることで小児ガンの発生率が上がったり*1 電磁波過敏症になる可能性があると言われてしています。

ご存知の様に西鎌倉小学校は高圧送電線用鉄塔が至近距離に建っています。つまり子供達は毎日この電磁波が生む磁界の中で学んだり、遊んだりしているのです。WHO は 2007 年の「環境保健基準」*2 の中で、科学的証明を待たず被害防止策を進める「予防原則」の考え方に立ち、各国のガイドラインを設け、防護対策を立てる様にと勧告しています。

10 年以上前から予防政策を取り規制を設けている国*3 もある中で、わが国の基準は甘く送電線に関しては何の規制もありません。子供達が今、どんな環境で過ごしているのか？まず《知ること》が大切だと思うのです。

自分達の目でその安全性を確認してみませんか？

東京電力では測定値を文書化することは一切しません。現地で私たち自身の目で安全性を確認するしかありません。

参加希望の方は、当日西鎌倉小学校正門にお集りください。

多くの方のご参加をお待ちしています。

発起人 内藤喜子

Eメールアドレス

(雨天順延の場合、日程は上記アドレスにお問い合わせください)

参考資料

*1: 1976 年にアメリカの研究機関が小児ガン患者は高圧送電線近くに住む割合が多いと指摘したことをきっかけに世界中で電磁波と小児ガンに関する疫学調査が行われました。50 を超える調査の多くで電磁界が強いと発症のリスクが上がるという結果となり、そのことから国際癌研究機関は電磁波を発露の可能性ありのランクである「2B」をつけています。

日本でも WHO のプロジェクトの一環として小児白血病の子供がいる家庭の全国疫学調査を 1999 年に開始。大規模な調査の結果、平均 0.4 マイクロテスラ (4 ミリガウス) 以上の電磁波では小児白血病の発症が 2~4 倍ほど増えることがわかりました。これは国際癌研究機関が各国の疫学調査 20 件のデータをひとつに束ねて解析した分析から得られた 2 倍とはほぼ同じものです。

ちなみに 0.4 マイクロテスラ (4 ミリガウス) というのは高圧送電線から数メートル、街路上の約 6600 ボルトの配電線から数メートルの磁界の強さに相当します。(国立成育医療センター研究所 WHO 電磁波プロジェクト諮問委員会委員斎藤友博先生)

*2: WHO 「環境保健基準」では「小児白血病と電磁波の因果関係があると断定できるほど科学的根拠が固まったわけではないが、何らかの対策を必要とするほどには十分な証拠とみなせる」とし、平均 0.4 マイクロテスラ以上の低周波磁界の環境では小児白血病の発症が 2 倍ほど増えるという研究データを明記しています。

*3: 予防措置に向けて動いている国々がいくつもあります。たとえば英国では「高圧送電線の 60 メートル以内での新規住宅および学校の建設の禁止」「既存住宅の隣りでの新たな高圧送電線の建設の禁止」といった規制を打ち出しました。スウェーデンでは小学校や幼稚園の近くにある高圧送電線用鉄塔の撤去や移転が行われています。